

NINJAL オープンハウス 2022

定住外国人の日本語使用と談話に関する縦断的研究 ～学習者の高齢化、言語摩滅の過程に注目しつつ～

野山 広 (国立国語研究所 研究系)

1. はじめに: Welfare Linguistics的な観点から、地域の需要や要望に応えた調査を目指して、現地に定住する外国人学習者に対して、OPI (Oral Proficiency Interview) の枠組みを活用したインタビューを約15年間 (第1期: 2007年～2009年, 第2期: 2009年～2012年, 第3期: 2013年～, 第4期: 2018年～) に渡って行ない、形成的フィールドワーク (當眞2006) や対話を蓄積することで彼らと寄り添いながら、学習支援を展開してきた。その成果として、インタビューの文字化データと共に、特に韓国出身の複言語話者に焦点を当てる。彼女は70代半ばとなり、言語習得から、徐々に摩滅へと変容し始めた。その言語生活情報やインタビュー後のフィードバック情報も含めた分析結果や、ネット上に公開した**日本語学習者会話データベース 縦断調査編** https://nknet.ninjal.ac.jp/iudan_db/を基に、その報告と今後の展望を行う。

データベースの概要: 散在地域 (A県B市), 集住地域 (C県D町) において、日本語学習者に対する縦断調査を実施した成果である。OPIの枠組みを活用した日本語学習者とテストの会話を文字化して、会話能力 (初級～超級までの10段階評価) の評価情報や関連情報とともに提供
⇒ 例) 約30人分の縦断データ: 第1期～2期**5年間のレーティング結果**

以下のように、2018年頃から、インタビュー内での繰り返しや、ポーズが増え、話のつながりがみえなくなってしまうことが散見され始めている。

この事例は2018年のOPIの談話データの一部である。卓球の試合のルールに関してテストが質問した際の回答である。

2018年
 テスター: あ、教えてください、ちょっと、ど、どんな試合、ルールでしたっけ
 Aさん: まず、二人、間に、とう、とうなるでしょ(はい)、で、この時は(んー)、あの一、日本の言葉でなんだっけ(んー)、もう一回、サービス(んー)、サービ、サービス(んー)、サービスじゃないんだ(んー)、<プレス>、同じくらいだったから(はい)、まず、日本のものをやって(んー)、こっちで負けた時には(はい)、あたしが勝ち(はい)、<プレス>、これ日本の言葉となんだっけ(んー)、なんでしょうかなー

下線を引いた部分の内容を踏まえると、日本語が出にくくなってきており、第二言語の言語摩滅が 徐々に進行しているのではないかと推察される。

表1. 外国人散在地域の話者のOPIレーティング

学習者	母語	職業	一年目	二年目	三年目	四年目	五年目
B1	ロシア語	主婦	初-中	初-上	中-中	中-中	中-中
B2	タガログ語	主婦	中-下	中-中	中-中	中-中	中-中
B3	タガログ語	主婦	中-上	中-上	中-上	中-上	中-上
B4	中国語	主婦	上-中	上-上	上-上	上-上	上-上
B5	中国語	高校生	上-下	上-上	上-上	上-上	上-上
B6	中国語	高校生	中-上	中-上	中-上	中-上	中-上
B7	マレー語	主婦	中-中	中-上	—	中-上	中-上
B8	中国語	主婦	中-中	中-上	中-上	—	—
B9	中国語	主婦	中-中	中-上	中-上	中-上	中-上
B10	韓国語	主婦	中-中	—	中-上	中-上	中-上
B11	中国語	主婦	上-下	上-下	上-下	上-下	上-下
B12	中国語	主婦	中-下	中-中	中-中	中-上	中-上
B13	中国語	主婦	—	—	中-中	中-中	中-中
B14	中国語	主婦	—	—	上-下	上-下	—
B15	タガログ語	高校生	—	—	中-下	中-下	中-下
B16	英語	主婦	—	—	—	—	中-上

表2. 外国人集住地域の話者のOPIレーティング

学習者	母語	職業	一年目	二年目	三年目	四年目	五年目
S1	ポルトガル語	大学生	上-下	上-中	上-中	上-中	上-上
S2	ポルトガル語	高校生	上-下	上-中	—	上-上	超
S3	ポルトガル語	高校生	上-下	上-上	上-上	超	—
S4	ポルトガル語	中学生	初-上	—	初-上	—	—
S5	ポルトガル語	高校生	(中-上)	上-下	上-中	上-中	上-上
S6	ポルトガル語	高校生	(中-上)	上-下	上-下	—	—
S7	ポルトガル語	高校生	初-上	—	—	—	—
S8	日・ポ語	中学生	上-上	超	超	—	—
S9	ポルトガル語	高校生	中-下	中-中	—	—	—
S10	ポルトガル語	教職員	中-中	中-中	中-中	中-中	中-上
S11	ポルトガル語	高校生	初-上	—	—	—	—
S12	ポルトガル語	高校生	初-上	中-下	—	—	—
S13	ポルトガル語	高校生	初-上	初-上	中-下	中-中	—

5年間のレーティング結果(表1 & 表2)

これまでの分析結果から
1. OPIのレベル変化と定住者が必要とする日本語力 (分散地域)
 B10=彼女は50代で来日して、滞日期間が4半世紀になろうとしており、これまで地域での多様な経験を積みながら周辺参加から十全参加の過程を往還してきた(嶋田2020、野山2012、2013、2015)。彼女のOPIレーティング結果は、2007年から2012年度までの5年間、表1からわかるように、中級中から中級上に上昇した。その後、6年目以降は中級上のままで現在に至っている。

⇒ **加齢とともに (特に70代半ばになると)、言語生活の状況次第では、言語習得から言語摩滅への変容が進むことがある。そのライフの変容を、自分自身も周囲もどのように受容して、認知の症状に応じて、どのような支援や介護をしてゆくのか、その方向性を考える時期が到来している。対象者のターミナルケアや看取りの時期には、バイリンガルの介護福祉士も必要となることが想定される。**

参考文献:
 徳川宗賢(1999)「ウェルフェア・リンギスティクスの出発」(対談者 J.V.ネウストプニー)『社会言語科学』第2巻第1号 89-100、社会言語科学会
 當眞千賀子(2006)「形成的フィールドワークという方法—問いに応える方法の工夫」吉田寿夫(編)『心理学研究法の新しいかたち』170-194、誠信書房

本中期計画の初年度にあたり、今回の発表では、OPIの枠組みを活用した縦断調査(形成的フィールドワーク)の結果の中で、特に、韓国出身の学習者B10(50代で来日し、現在70代の国際結婚の配偶者)の、コロナ禍を含めた最近の状況に焦点を当てた。以下、彼女の背景、特徴について改めてまとめる。

*** 学習者B10の背景、特徴**
 ○彼女は50代で来日して滞日期間が4半世紀になろうとしている(嶋田2020)。
 ○現在70代半ばとなり、これまでの第二言語としての日本語の習得過程から、摩滅(消失)の過程へと変容し始めている。
 ○彼女のOPIレーティング結果は、2007年度から2012年度までの初期5年間で中級の中から中級の上に変容した。→6年目以降は、中級の上のままで現在(最近のインタビューは2020年3月)に至っている。
 ○彼女は70代になってからも、中級の上の幅の中で、その会話力は少しずつ伸びているようであったが、この数年、会話の中での繰り返しも多くなり始め、**日本語(第二言語)の言語摩滅が始まったのではないと思われる傾向**がある。

⇒ **今後の展望: 高齢学習者の言語摩滅(喪失)に関する学際的研究、つまりは、介護分野、認知症予防の分野の専門家、加齢学、福祉言語学(徳川1999)等の専門家等との連携・協働や研究・追究がますます必要となってくるであろう。**

これまでの成果等

【論文・著作等】

- (1) 嶋田和子(2020)『外国にルーツを持つ女性たち—彼女たちの「こころの声」を聴こう!』ココ出版
- (2) 野山広(2015)「地域における日本語教育支援と多文化共生—ローカルな視点から捉えるグローバル・シティズンシップ」(特集:異文化間教育学とグローバル・シティズンシップ)『異文化間教育』42号(pp.45-58)。異文化間教育学会
- (3) 野山広(2013)「地域に定住する外国人の日本語会話能力と言語生活環境の実態に関する縦断的研究」『国立国語研究所プロジェクトレビュー』第4巻第2号、100-109
- (4) 野山広(2012)「日本語使用者としての対話力を育てる—地域日本語教育の実践現場から見えてくること—」鎌田修・嶋田和子編(平田オリザ、牧野成一、川村宏明、伊東祐郎、野山広著)『対話とプロフィエンス—コミュニケーション能力の広がり高めを目指して—』pp. 74-93. 凡人社

【発表】

- (1) 野山広・嶋田和子・山辺真理子・今村圭介(2012a)「日本語非母語話者の発話スタイルの特徴と課題—外国人散在地域の定住外国人の縦断OPIデータから—」2012年日本語教育国際研究大会(ICJLE,NAGOYA)(8月18日、名古屋大学)
- (2) 野山広・嶋田和子・山辺真理子・藤田美佳・森本郁代(2012b)「散在地域に定住する外国人の日本語習得と言語生活支援の実態に関する縦断的研究—OPIの枠組みを活用した形成的フィールドワークの結果を踏まえながら—」『2012年度日本語教育学会秋季大会予稿集』31-42、日本語教育学会(10月13日、北海学園大学)
- (3) 野山広・嶋田和子・山辺真理子・山口真理子・旗野智紀(2009)「集住地域に定住する日本語非母語話者(日系ブラジル人)の言語生活に関する縦断的研究—OPI (Oral Proficiency Interview) テストを活用した会話データを事例として—」『社会言語科学会第23回大会論文集』